

1. 授業の概要

1-1 カリキュラムの概要

教育実践高度化専攻は通常の学校の教員を目指すストレートマスターと通常の学校の現職教員を対象としており、特別支援教育に関する知識がほとんどない院生が在籍している。

本レポートでは教職大学院における特別支援教育に関する授業の改善を報告する。

教職大学院のカリキュラムにおける特別支援教育に関する授業科目の内、専攻必修科目「特別支援教育の理論と実践」、コース別科目「特別な教育的ニーズへの対応」について、検討する。コース別科目は教育実践開発コース（学部卒業者）で開講している。

1-2 授業概要

○特別支援教育の理論と実践（表1）

特別支援教育の概要、各障害の特性の紹介と支援・指導方法、実習校等で気になる児童生徒に関するケースレポート、特別支援学校の見学（2校）

2. 授業評価

2-1 受講生対象のアンケート

表1 「特別支援教育の理論と実践」の内容

内容	方法
特別支援教育の動向、インクルーシブ教育システムの構築	講義
各障害の理解	講義と反転授業
個別の教育支援計画と個別の指導計画	講義
合理的配慮を含んだケース検討	グループディスカッション
インクルーシブ教育システム時代の健康教育	講義、ゲストティーチャー
特別支援学校見学	学外授業、レポート

2020年2月にアンケート調査を実施した。受講生の成績に一切影響させず、授業に対する自由な回答を保障するため、最終試験終了後に配布、無記名とし、紙媒体で研究室ドアに設けた回収袋への提出とした。

受講生23名中17名が回答し、回収率74.0%、回答者の内、現職教員が8名、ストレートマスターが9名であった。

3. アンケート結果と考察

表2に「特別支援教育の理論と実践」の学習内容に対して、教員として働く時に役立つと考える項目を示した70%以上と高い割合で回答があった項目を太字で示した。また、青太字は現職教員が、赤太字はストレートマスターが他方に対して30%以上回答が高かった項目を示している。現職教員は特別支援教育やインクルーシブ教育システムに関する概念に加え、合理的配慮の実例や連携校実習もしくは指導景観による事例発表など、理論と自らの実践を融合させて学ぼうとしていることがわかる。対して、ストレートマスターは特別支援学校の教育課程、個別の教育支援計画などへの回答が多く、特別支援教育全般に関心が向いているが、実践と結び付けて考えることまでは至っていない可能性がある。今年度の傾向として論文購読に対する関心が低いことが挙げられる。表3に示す通り、教員として働くときに役立つと考える項目の経年変化でも、論文購読の落ち込みが大きい。使用している論文は実践的な論文で、新たな知見が出された時には差し替えるようにしているが、大きな方針変更はしていない。先行研究を読み解き、自らの実践と照らして考察することは深い学びにつながる。院生の読解力との関係でこのような結果になっていないか、今後も推移を見守るとともに、院生の興味関心をかきたてる最新の知見を提示できるようにしていきたい。

表 2 教員として働く時に役立つと考える項目(複数回答)(%)

	現職教員	ストレートマスター
特別支援教育の概念	87.5	88.9
知的障害特別支援学校の教育課程	12.5	77.8
自立活動、教科領域を合わせた指導	37.5	66.7
特別支援学校の見学	87.5	88.9
ゲストティーチャーによる講義	50.0	55.6
インクルーシブ教育システムの概念	87.5	77.8
合理的配慮の概念、事例	100.0	66.7
各障害に関する調べ学習	75.0	88.9
連携校実習もしくは指導経験による事例発表	100.0	77.8
論文購読	12.5	0.0
個別の教育支援計画と個別の指導計画	37.5	77.8

表 3 教員として働く時に役立つと考える項目の経年変化(複数回答)(%)

	2016年度	2018年度	2019年度
特別支援教育の概念	75.0	75.0	88.2
知的障害特別支援学校の教育課程	50.0	50.0	47.1
自立活動、教科領域を合わせた指導	50.0	56.3	53.0
特別支援学校の見学	75.0	68.8	88.2
ゲストティーチャーによる講義	43.8	56.3	47.1
インクルーシブ教育システムの概念	75.0	62.5	82.4
合理的配慮の概念、事例	92.9	92.9	82.4
各障害に関する調べ学習	78.6	78.6	82.4
実習もしくは指導経験による事例発表	50.0	42.9	88.2
論文購読	35.7	64.3	5.9
個別の教育支援計画と個別の指導計画	71.4	64.3	58.8

表 4 に教員として働く時に役立つと考える理由を示した。表の見方は表 2 と同様である。現職教員は各項目に対してポイントを絞って回答しているが、ストレートマスターは項目が分散し、回答数全体も多くなっていることから、焦点化ができていないことが推測される。また、表 5 にもう少し詳しく知りたい、学びたいと考える項目を示した。この点については現職教員とストレートマスターの間に大きな差はなかった。「合理的配慮の概念、事例」が突出して高く、70 点以下ではあるが太字で示した。論部購読への興味関心が低く、合理的配慮の実例を求めていることから、学校現場で役立つノウハウを得たいと考えていることが推測される。実際の対応に苦慮している事の表れと捉えることもできるが、ハウツーに終始せず、なぜその配慮が必要なのか、個々の実態やライフステージに応じた配慮・支援を自ら考える力をつける方策を考える必要がある。

4. まとめ

これまで特別支援教育に関する授業評価アンケートを基に経年変化を見てきたが、今年度は現職教員とストレートマスターの人数がほぼ半々であったことから、現職教員とストレートマスターの違いについて検討した。15 回の授業に多様な内容と多様な授業形態を取り入れていることから、現職教員はその時々でのねらいを理解し受講できているが、ストレートマスターは焦点化しきれず、授業のねらいに迫り切れていない可能性がある。また、理論と実践の往還を目指しているが、院生の興味関心が実践的な内容に目が行きがちであることは否めない。通常为学校における合理的配慮や基礎的環境整備が全国的に浸透してきている中で、真に必要な配慮は環境整備が行われ、児童生徒の成長発達に寄与できる教員養成に向け、授業のねらいや内容について取捨選択することも検討していきたい。

表 4 教員として働く時に役立つと考える主な理由(複数回答)(%)

		知識として必要	子どもの見方がわかる	内容が具体的	グループワーク	配布資料	現職教員・ストレートマスターとの交流
特別支援教育の概念	現職	87.5	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0
	ストマス	88.9	33.3	22.2	22.2	33.3	11.1
知的障害特別支援学校の教育課程	現職	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ストマス	77.8	44.4	22.2	0.0	22.2	11.1
自立活動・教科領域を合わせた指導	現職	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ストマス	77.8	44.4	44.4	11.1	22.2	11.1
特別支援学校の見学	現職	50.0	62.5	62.5	0.0	0.0	0.0
	ストマス	44.4	66.7	88.9	0.0	11.1	0.0
ゲストティーチャー	現職	12.5	12.5	25.0	0.0	12.5	0.0
	ストマス	22.2	33.3	44.4	0.0	33.3	0.0
インクルーシブ教育システムの概念	現職	87.5	50.0	25.0	0.0	12.5	0.0
	ストマス	77.8	44.4	44.4	11.1	33.3	11.1
合理的配慮の概念、事例	現職	62.5	75.0	62.5	0.0	0.0	0.0
	ストマス	66.7	44.4	55.6	22.2	44.4	33.3
障害に関する調べ学習	現職	62.5	37.5	25.0	12.5	12.5	12.5
	ストマス	88.9	55.6	33.3	33.3	55.6	44.4
仮想事例の事例検討	現職	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	25.0
	ストマス	22.2	33.3	22.2	33.3	11.1	22.2
連携校実習若しくは指導経験による事例検討	現職	37.5	50.0	75.0	0.0	0.0	0.0
	ストマス	22.2	44.4	77.8	33.3	22.2	33.3
論文購読	現職	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ストマス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表 5 もう少し詳しく知りたい、学びたいと考える項目(複数回答)(%)

	現職教員	ストレートマスター
特別支援教育の概念	25.0	33.3
知的障害特別支援学校の教育課程	25.0	33.3
自立活動、教科領域を合わせた指導	25.0	22.2
特別支援学校の見学	12.5	22.2
ゲストティーチャーによる講義	0.0	0.0
インクルーシブ教育システムの概念	37.5	22.2
合理的配慮の概念、事例	62.5	66.7
各障害に関する調べ学習	0.0	11.1
連携校実習もしくは指導経験による事例発表	0.0	22.2
論文購読	12.5	0.0
個別の教育支援計画と個別の指導計画	25.0	33.3